Ｎｏ．３９１【２０２０年１月２４日配信】

浅虫地区の水道　昭和編（担当：鈴木）

こんにちは！　嘱託員の鈴木です。本年もよろしくお願いいたします。

さて、令和元年（2019）12 月 6 日配信の「あおもり歴史トリビア」№385 で、浅虫地区の水道についてお話ししましたね。

東津軽郡野内村の一部だった浅虫地区は、飲料水に使える井戸が少なく、人々は水の確保に苦労してきました。そのため、明治から大正にかけ、川水や泉水を用いた簡易な水道がつくられましたが、それは十分なものとはいえませんでした。

そこで、野内村は昭和 13 年（1938）に青森市水道課に設計を依頼し、浅虫川支流の高館沢を水源とする近代的な水道の敷設を計画しました。しかし、同 15 年に県の認可が下りたにも関わらず、戦争の影響により着工が延び延びになったまま終戦を迎えてしまいました。

やがて戦後の混乱も落ち着いた頃、再び水道敷設の話が起こりました。しかし、村は学校建築等に追われ財政に余裕がなかったため、昭和 23 年に住民有志によって「浅虫上水道株式会社」が設立され、翌 24 年に高館沢を水源とする水道が完成し通水が開始されました。

ところが、翌年には早くも水量が不足し始め、その上、設備を拡張する資金の捻出も難しく、運営が困難になってしまったのです。そこで、昭和 32 年に野内村が会社および水道設備を買収して村営とし、さらに同 37 年の合併により青森市に移管されて、設備の拡張が図られました。それでもなお、観光ブームによる温泉客の増加や水洗便所など生活用水の使用量が増えたことで、浅虫の水源だけでは需要を満たせず、やむなくほかから水を運搬してしのぐなどしていました。

そこで、市水道部では新たな水源の調査に着手し、その間とりあえず久栗坂簡易水道の水を浅虫に配水するため、昭和 41 年 3 月に応急で配水管を敷設しました。さらに東北本線の複線電化のために浅虫トンネルを掘削した際、思いがけず水が湧いたこともあり、これからは水不足が解消されると思った矢先、同年 7 月の集中豪雨による山崩れで配水管が寸断、その後トンネルの湧き水も減少してしまい、再び水の確保が困難になってしまいました。

浅虫地区の水不足はその後も続き、久栗坂に新水源を求めて調査したり、海水の淡水化や運搬給水船を設置する案が検討されたりしましたが、費用の問題もあって実現しませんでした。

やがて、昭和 46 年 5 月に、原別配水所で取水した地下水を久栗坂地区の浅虫配水池まで配水する送水管が完成し、浅虫地区に水道水が安定して供給されるようになりました。

※今回のトリビアは『青森市水道六十年史』（昭和 44 年　青森市水道部）、「あおもり水道だより」（平成 27 年 8 月　青森市企業局水道部）等を参考にしました。

原別配水所（桑原地区）

浅虫送水管　宮田水管橋